



みずの さち
水野 佐知 議員

地域活性化

各施設を線として繋げることは まずは課題解決支援に注力

問 10月に佐賀中の2年生が、総合学習の一環で土佐くろしお鉄道と連携し、取り組んだ土佐佐賀駅の駅開きでの地域住民への効果と課題、今後これをどう生かし、地域にぎわいづくりへ繋げていくかを問います。

答 渡辺企画調整室長

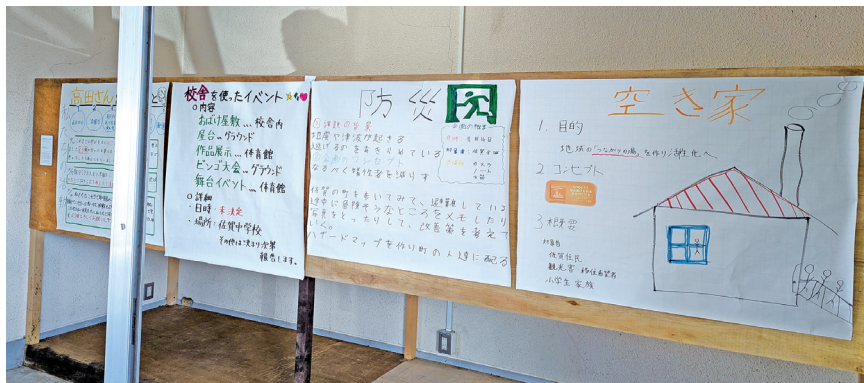
駅舎内にある2つの店舗は、乗降者数の減少などで、約20年前から空き店舗となっていた。

駅開きは、イベントを通じて地域を盛り上げようと、中学生が中心となり開催。生徒達は約1カ月前から駅舎の清掃や花壇の花植え、鉄道職員による講話等、たくさんの協力で準備を進めてきた。

空き店舗のスペースには、生徒が作成した防災や空き家活用のポスター、地区の歴史の写真などを展示の他、アイスコヒーの販売も行い、訪れた地域の方に楽しんでもらった。

開催にあたり、消防佐賀分団の花壇作り、社協やあったかふれあいセンターとの花植えなど、様々な機関が関わり、生徒は、地域の人達と関わる大切さや皆で協力して町を盛り上げていきたいなどの活動を通じた学びがあった。

今回の成果と佐賀中や社協、くろしお鉄道からのフィードバックを整理し、今後に生かしたい。

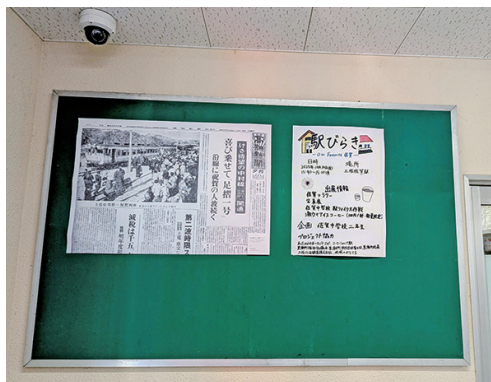


空き店舗スペースに掲示された中学生が作成した防災や空き家活用のポスター(25年10月佐賀駅)



右・消防佐賀分団が花壇を作り、中学生と社協やあったかふれあいセンターが一緒に花を植えた

左・中学生の駅びらきのポスターと駅開通当時の様子を報じた新聞(25年10月)



問 佐賀駅、道の駅、集落活動センター、佐賀温泉を線として繋げ、住民が元気に暮らし続けることのできる取り組みについて現状と課題を問います。

答 渡辺企画調整室長

横の連携など、できることから取り組んでいる。現在、各施設を関連付けた新たな施策の展開は計画していない。それぞれ方針や目標、状況も異なるので、まずは課題解決に向けた支援に注力し、基盤作りに努めたい。



土佐くろしお鉄道土佐佐賀駅に停車した黒潮町のラッピング汽車(25年10月)